

ひとりひとりがかけがえのない存在であるために

七生養護学校の教育を壊さないで

「こころとからだの学習」の大切さを考えよう

「赤ちゃんはどうやって生まれるの」「自分はどうやって生まれてきたの」
子どもが自然にもつ疑問です。もし聞かれたらどうしよう、おとなはどきどきしています。子どもは
まっすぐな、素直な気持ちで聞いてくるのです。生命の誕生を科学的に教え、ひとりひとりがかけ
がえのない存在であることを伝えるのはとても大切なことです。

さまざまな調査の中でも、日本の子ども達の自己肯定感の低さは突出して表れています。「わたし」
が大事にされていることを知ることで、わたしと同じようにみんなも大事だということがわかり
ます。そんなことをとても丁寧に教えていたのが七生養護学校でした。

一部の都議会議員とマスコミによって悪意を持ってゆがめられて伝えられましたが、真実はどう
だったのでしょうか。今はどうなっているのでしょうか。東京都教育委員会は本来、子どものことを第1
に考えるべきなのではないのでしょうか。

昨年まで地域と連携して子どもにより添った教育を進めていた元校長先生や関係者にお話を
聞き、いま大切にしていかななくてはいけないことは何なのかと一緒に考えましょう。

市民の会の活動報告

七生養護学校は今どうなっているの？

元七生養護学校の教師は言いたい

金崎元校長先生より

人件救済申立弁護団より

とき 3月26日(金) 18:30から

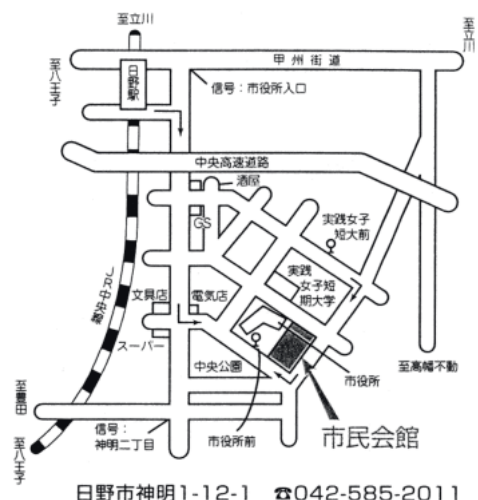
ところ 日野市民会館小ホール

主催 七生養護学校の教育を支援する

日野市民の会

連絡先:小林 和 (TEL: 042-584-5374)

市民会館案内図



JR中央線日野駅から徒歩15分

京王線・モノレール高幡不動駅から日野駅行きバス
(実践女子短大経由)実践女子短大前下車徒歩3分

七生養護学校に対する歪んだ非難は許せません！